

# 琉球大学学術リポジトリ

## 米国管理下の南西諸島情況雑件 沖縄関係第四卷

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-01-21 キーワード (Ja): 琉球問題, 台湾訪問, 新聞情報, 祝祭典, 対日要望書, 日本国会参加 キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/43190">http://hdl.handle.net/20.500.12000/43190</a>

(9)

佐藤首相の沖繩訪問関係

# 海外反響速報

昭和四十年八月二十六日

佐藤首相の沖縄訪問に対する海外の反響

外務省情報文化局

米 国

(一) ワシントンポスト (二十日付社説)

佐藤首相の沖縄訪問は、日本のアメリカに対するこれまでの施政権返還要求の仕方がなまぬるかつたとする国内の批判をやわらげようとするねらいから出たものであり、同時に十一月選挙を目ざして沖縄民主党の支援、沖縄民生への援助強化のためであることはたしかである。しかし左翼の指導のもとに「佐藤ゴー・ホーム」のデモが起きていることは、少なくとも一部の沖縄住民が佐藤首相の意図を問題外としていることを示すものである。

かりにアメリカがいまだちに沖縄を日本に返還したら、日本は中国の脅威、戦後国内に支配的な平和主義によつて基地の存続を許すことはできないだろう。しかし佐藤首相訪問ののち、アメリカが日本に施政権を返還する準備を始める

ことになるかすれば、それはかえつて米基地を維持するための長期的視野にたつた解決策となりうるかもしれない。このためにはもちろん米軍部を説得しなければならぬ。軍部としては一つ譲れば日本がさらに譲歩を求めて、次には米基地撤廃を求めるとを恐れるだろう。そこに危険はあるが、アメリカが日本の国家主権に対する願望とアメリカの国防上の必要とを両立させるような大胆な先見の明ある措置をとらなければ、アメリカは沖繩基地をめぐつて際限のない困難に直面することになる。

(二) ワシントン・デリー・ニュース (二十三日付社説)

佐藤首相は西欧的ユーモア精神をもつた日本人であり、彼の写真の多くは阿々大笑しているものである。だから佐藤首相は身辺を守るため案内された米軍迎賓館の個室で、笑つていたに違いない。佐藤首相は日本と沖繩との連帯感を強調するため、沖繩に出かけた戦後初の首相である。米国は共産主

義者が極東全域を脅かすのをやめれば、沖繩を日本に返還することに同意している。

ではなぜ六千人の沖繩人左派分子が騒ぎを起し、佐藤氏の生命を脅かすような行動に出たのであろうか。彼らは佐藤首相が沖繩の返還を直ちに要求するよう希望しているのである。米国がこの要求をきかないならば、重要な軍事基地としての沖繩を放棄させるため軍備のない日本が米国と戦争を始めるべきであるということになるのだろう。

これは少し混乱しているようだ。しかし北京が路線をきめているのである。佐藤首相がデモ隊が叫んでいるのと同じように日本は沖繩の返還を希望している(但し、中共がうるついている間はだめ)と沖繩島民に語っている時に、われわれは佐藤首相を保護しなければならぬのである。

佐藤首相は一九六〇年、アイゼンハワー大統領が日本人による同じようなデモによつて訪日を取り止めなければならぬ

くなつた時のことを思い出して更に、苦笑いしているだろう。  
(三) ニューズウィーク (八月三十日号)

一九四三年以来、日本の総理大臣として初めて、沖縄を訪れた佐藤首相が学生と左翼のデモのためにホテルへ帰れず、米軍のVIPホステルに避難した事実は、特に皮肉な意味をもつ。佐藤首相は、島民に対する経済援助を増加するとの約束を手土産に同島を訪れた。首相は今回の訪問が戦後二十年経つた今、なお沖縄が米国の手に残っていることについて、政府の怠慢を攻撃する社会党と共産党の立場を弱めることに役立つことを希望していた。ところが、沖縄の即時返還を米国に要求しなかつたことをたてに、佐藤首相を「米国の追従者」と非難する新しい機会を敵に与えることになつた。沖縄問題は、反佐藤の人々のいう程簡単なものではない。沖縄は、米国にとつて戦略的な要である。沖縄の住民は物質的には米軍駐留のおかげをこうむつてゐることが多いのだが、

4

日本人と同様に、米国が戦争の巻き添えにしようとしているとの病的な不安にとりつかれており、繁栄のために米国の傘の下にいた方がよいとは公然と認めようとしなない。しかしながら、米国は、住民の生活水準を高めることによつて、中共の脅威が去るまでは米国は沖縄の施政権を手放すことは全くないのだという冷厳な事実を島民に黙認させようと期待している。これは米国にとつて、大きな賭である。先週の騒ぎに示されるように、住民の協力なしに、軍事基地を効果的に活用することは、むずかしいと思われるからである。

ニ  
フランス

ファイガロ (二十日付、東京特派員発)

佐藤首相は、沖縄の施政権回復を要求するために、沖縄を訪れた訳ではない。佐藤首相は米高等弁務官の招待により同島を

5

訪問したのであり、招待者の気嫌をそこねるつもりはない。  
佐藤首相は、現在の情勢では米国にとつて沖縄の施政権返還を考慮することは問題外だということをよく知つてゐる。

米国は日本の沖縄に対する潜在主権を否定してゐないし、国際情勢が許し次第、施政権を日本に返還するとくり返し、明瞭に約束してゐる。その上、北ヴェトナムに対する軍事行動のために米国がこの地域を使用してゐることに對し佐藤首相が同地域に対する日本の主権の存在を厳肅に指摘したことを米国は迷惑と思つてゐるわけではない。むしろ全く反対である。米国のアジアにおける同盟国の一つが、ヴェトナム紛争で米国側に立つてゐるといふ印象を与へることはすべてアメリカの政策に役立つのである。

米国政府は日本が沖縄に対する経済援助を一層拡大することを希望しており、特に教育、社会福祉面での援助の方式を検討することも、佐藤首相の沖縄訪問の主要目的の一つであろう。

6

三 中 共

大 公 報 (二十二日付論評)

佐藤政府は沖縄返還を要求する日本人民の声を聞かないばかりではなく、實際上、米国が沖縄を侵略戦争の基地にしてゐることに同意し、日本の領土の主権と民族の利益を米国に売り渡してゐる。「日本の首相として沖縄をみずから直接視察すると自称し沖縄を訪れた佐藤首相は実際には沖縄の米当局から外国の賓客として扱われ、沖縄県民のデモに出あうとたちまち米軍兵舎に逃げ込んでしまつた。これこそ佐藤首相が何度も唱へてゐるいわゆる「自主独立」といふ言葉に對するまつたく大きな皮肉ではないだらうか。

佐藤首相は沖縄県民の日本復帰の強い願いを無視して「沖縄にある米国の軍事施設は極東の平和と安全にとつて非常に重要である」などとのべ、「日米双方は意見の一致をかちとり協力

7

する必要がある」と強調している。瀬長沖繩人民党委員長が指  
摘した通り、この訪問の目的は米国が沖繩を米国の侵略戦争に  
まき込もうとするのを助け沖繩人民の闘争がひろがるのをとし  
とどめようとするためのものである。

A.3.0.0.7-1

課長 事務官 総務班 フォトリ 課長 主任 庶務班 受付班 整理	年 月 日 28 9 4	時 分 秒 18 00	半紙
	年 月 日 24 2 13	時 分 秒 24 21 13	著
	外務大臣殿	シヤカルタ	齊藤 大 使 総 領 事 領 事
	件名 佐藤首相訪沖についての報道振り		

才845号 平 至急  
 23日付アングラ通信は、  
 (1) 佐藤首相は沖縄訪問の際、沖縄住民千  
 毛隊の襲撃を受け、銃局米口の軍事基地に  
 避難して宿泊せざるを得なかった。  
 (2) 佐藤首相は沖縄の民生向上、経済援助  
 の強化等を模索するため、関内と協賛機度  
 を設置すると述べたが、沖縄の即時返還に  
 ついては、なにも触れなかった。  
 40(3) 25日佐藤首相は、バヤレイ予毛に襲われ

主管課長へ  
 本電主管、配付先等に関し御意見あ  
 れば直ちに電信課検閲班に連絡こう  
 電信写

からも、沖縄訪問は予想以上の成果を挙げ  
 たと述べている。  
 旨の報道を行つた。この報道は23日付  
 夕刊ワルタ、バクテイ(極左系)および  
 24日付スルー・インドネシア(口民党株  
 漢紙)に掲載された。  
 (3)

表(左回)

記帖了